

令和4年度奈良県環境審議会水質部会（第2回） 議事録

日時 令和5年1月24日（月）
10:00～11:00
場所 奈良県庁主棟5階 第一会議室
Webによる会議

○事務局が概要について説明

○質疑応答

◎岸本委員

環境基準達成率において、この3年間新宮川水系が低い値になっていることに関して、急に落ち込んだのはいずれも同じ地点か。それとも別々の地点か。

◎事務局

環境基準を超過した地点はおおむね同じ地点である。

◎岸本委員

ということは、そのあたりの地域で何かしらの原因が発生していることも考えられるので、今後詳細調査を実施される場合はそのあたりも検討され、必要に応じて対策も講じられたい。

次に、大和川について、環境基準達成率が90%以上と良好なのはいいのだが、同水系はC類型があてはめられ基準値が高いのだが、以前は非常に汚濁のひどい川でC類型を達成することすら困難であった。昨今は非常にきれいになり、かつてのように全国ワースト1位からも脱却していると思うが、奈良県として、現況を踏まえて環境基準や規制値の在り方などを検討し、類型指定の見直しなどは考えているか。

◎事務局

委員ご指摘の通り大和川の水質は改善してきているが、支川においていまだ水質改善の余地が残されているところがある。県においても大和川の水質改善を重点課題に取り上げ、生活排水対策を中心に水質改善に取り組んできているところ。しかしながら、一定の成果を得たと宣言できるには至っておらず、引き続きC類型での環境基準達成を目指していこうと考えている。

また、補足するが、大和川水系にあっても源流に近いところではA類型があてはめられているところもある。

◎惣田委員

淀川水系で、昨年から測定回数を年4回から12回へ増やし始めたところがあって、まだ

結果は取りまとまってはいないと思うが、回数を増やしたことで何かしら傾向はみられたか。

◎事務局

宇陀川に流れ込む支川のうち、特に水質が思わしくない6地点を選定して年12回の調査を行っているが、全体的な傾向としては6地点とも似た挙動を示している。また、年4回での年間平均と年12回のそれとでは、後者の方が低い値を示している。

◎惣田委員

承知した。詳細調査はぜひとも継続していただきたいと思う。

◎県漁連

先週「熊野川を生かすフォーラム」が催され、H23年紀伊半島大水害で壊滅的な被害を受けた熊野川水系、新宮川水系が最近復活しつつあるのを喜んでいたところであるが、事務局説明では新宮川が環境基準を達成できず、今後原因を解明していくとのこと。このことについて、何かしら心当たりはあるのか。

◎事務局

当該地域は人口が増えているわけでもなく、工業をはじめとした産業が盛んでもないので憶測にすぎないが、思い当たる原因はある。しかしながら、現時点では何ら根拠を持たないので、今後、実証していくための方策も検討しながら原因の解明に努めてまいりたい。

◎県漁連

今後、科学的な根拠を持って原因が解明できれば、ぜひ情報提供願いたい。

◎吉田委員

大和川水系の岡崎川だけが基準を達成しない状況が続いているとのことだが、原因は何か。何かしら取り組みはされているか。

◎事務局

岡崎川については、2地点で常時監視を行っている。一つは大和郡山市と安堵町の境にある「昭和大橋」で、もう一つは岡崎川が富雄川と合流する直前の「岡崎川流末」。このうち、「岡崎川流末」がどうしても環境基準を達成できていない状況にある。いくつか原因は考えられるが、一番に、年を通じて水量が少ないということが挙げられる。例えば田植えの時期であれば、上流の大和郡山市内で水が堰き止められ、流末付近では溜水のようにになっているし、冬場は大和平野の降水量が少ないため岡崎川の流量も少なくなる傾向にある。ただ、これは岡崎川だけに限ったことではなく、似た状況にある河川は他にもあるので、その他の原因として「岡崎川流末」では生活排水ではないかと考えている。実際、安堵町の下水道接続は進んでいるが、岡崎川流域には未だ浄化槽、しかも単独処理浄化槽が多いエリアもあり、生活雑排水がそのまま放流されていることもあるのではと考えており、県景観・環境総合センターにおいて岡崎川の水質改善に関する調査を行っているところ。

◎惣田委員

地下水で 1,1,2-トリクロロエタンが検出されているが、こういった物質が使われている場所なのか。

◎事務局

当該物質が検出された地点は、県内を代表する歴風、風致地区である明日香村の、さらに人里離れた山間の集落で、工場はおろか、民家も少なく、1,1,2-トリクロロエタンのような人為的由来しか考えられない物質が検出されるのは県としても不思議に感ずるところ。

◎惣田委員

分析誤差なら問題はないが、不法投棄等が原因なら嫌な感じがする。

◎惣田委員

今年度から、大腸菌群数が大腸菌数に変更されていたり、PFOS & PFOA が県自前で測定されたりしているが、何か変化に伴うことはあったか。

◎事務局

大腸菌数については、環境基準値の設定が、大腸菌群数のころの環境基準とうまく整合していないような手ごたえを感じている。大腸菌数になってから、環境基準を満たせない地点が増えている。

また、PFOS & PFOA については、県景観・環境総合センターで大和川水系の環境基準点について測定を行っているところ。

◎惣田委員

大腸菌はどのようなところで環境基準超過しているのか。

◎事務局

淀川水系が多い。生活排水由来も考えられなくはないが、イノシシやシカなどの野生動物の影響が大きいと思われる。